

あつま

生涯学習だより

発行 厚真町教育委員会 電話 27-2495

主な記事

- ①冬休みスケート教室開催/「厚真の自然」を知ろう!
- ②あつまメディアサポートプロジェクトとは/6,000年前の縄文から続く交流の町厚真のキラキラ土器の道
- ③ルーブル絵画展を開催/教育振興計画(改定版)/1月定例教育委員会/準要保護世帯を対象とした高校入学準備金給付のお知らせ
- ④令和3年度読書感想文コンクール
- ⑤図書室だより
- ⑥放課後子ども教室活動紹介

ウィンタースポーツに親しみ

冬休みスケート教室開催

令和4年1月11日～15日、町民スケートリンクにて、小学1～4年生を対象とした「冬休みスケート教室」が開催されました。12日と15日は大雪により中止となってしまいましたが、11日は厚真中央小、13日は上厚真小と各校1日ずつ実施され、合計63人の児童が参加しました。

参加した児童は、厚真町の伝統的なウィンタースポーツであるスケートの親しみ方や上手に滑るためのコツなどを地域の講師から学びました。1年生の中には初めてスケート靴を履く児童もいましたが、教室が終わるころにはどの学年の児童も上達し、「楽しかった」「明日も頑張りたい」など明るい声が聞かれました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響から町のスケート記録会は中止となってしまいましたが、町民スケートリンクは、両小学校のスケート授業や一般利用により、ここ数年で最も多い、延べ約3,000人の利用がありました。



町民スケートリンクで開催されたスケート教室

「厚真の自然」を知ろう!

—「ふるさと教育」上厚真小学校4年生の取組—

2月7日(月)上厚真小学校4年生が、ふるさと教育の一貫として「厚真の自然」をテーマに、豊沢地区の環境保全林で、「かんじき」を使って冬の森について学びました。

今年は、厚真町も例年になく大雪に見舞われたこともあり、「かんじき」を使った冬の森の体験には申し分のない好条件になりました。初めて「かんじき」を履いた子どもたちは、おぼつかない足取りで雪の上を歩くと、小動物の足跡を見つけ、興味深くじっくり観察していました。また、森の中を散策中にツタヤカエデの木を見つけ、樹液の味を確かめると、「少し甘い」などの声が聞かれました。

活動を終えた子どもたちからは、「冬眠しない動物もたくさんいることがわかった」などの感想が聞かれ、子どもたちには、有意義な時間になりました。

講師を務めた森林むすびの会の方は、「子どもたちには冬の森の体験から、さまざまな気づきや発見の中で、自然とのかかわりについて学びを深めてほしい。」と話していました。



豊沢地区の環境保全林で「かんじき体験」

あつまメディアサポートプロジェクトとは？

厚真町教育委員会では子どもたちが健康に留意し安全にメディアを活用することを目的に、「あつまメディアサポートプロジェクト」を実施しています。主な取組として、小中学生対象の「情報モラル教室」や「メディアコントロールチャレンジ」、乳幼児保護者対象の「メディアミニ講座」を行っています。

メディアコントロールチャレンジとは、メディアの利用時間をコントロールするために挑戦したい目標を自ら立て、チャレンジする取組です。小学生は長期休業中の2日間、中学生は学期末テスト前の4日間に実施しています。

今年度の小中学生の取組率と達成率は、下表のとおりです。小学生は、中学生と比べて自ら目標を立てチャレンジすることは難しいので、ご家庭のご協力をお願いしています。

中学生の50%はメディア利用の目標時間を1時間未満に設定し、その内約13%は利用なしの目標を立て、学期末テストの成績が上がるなど成果を出した生徒もいました。

これからの社会は、様々な場面でICT（情報通信技術）の活用が広がっていきますが、子どもたちのメディアの利用時間や活用については慎重に行う必要があります。

メディアを安全に活用するためには、家庭でのルールづくりやフィルタリング（有害サイトの利用をブロックなど）やペアコントロール（スマホやゲームの利用状況把握）を行うことが重要であり、ゲームやスマホを利用する時は、注意する必要があります。教育委員会では、専門のメディアインストラクターによるメディアに関する相談を、下記連絡先により受付けております。

メディアコントロールチャレンジ結果

	取組率	達成率
小学生	30%	44%
中学生	91%	73%



【連絡先】厚真町教育委員会社会教育グループ ☎27-2495

青少年センター文化財サテライト展示 ☆ ◆ ◆ ◆ 6,000年前の縄文から続く ☆ 富良野や十勝との交通路 ◆ ◆ ◆ ◆ 交流の町 厚真のキラキラ土器の道

昨年7月に北海道・北東北の縄文遺跡群が世界遺産に登録され、「縄文」が再び注目を浴びています。

厚真町にも100箇所以上の縄文時代の遺跡があります。特に厚真川上流域では、約140万年前の十勝岳の大噴火で流れ出た火山灰の大粒の石英結晶を含む土器が出土しています。この石英がキラキラと反射して輝くことから本町では通称“キラキラ土器”と名づけました。この土器の発見により約6,000年前から厚真町幌内と富良野や十勝周辺との交流交易ルートが見えてきました。これまで縄文人は海岸や河川沿いの移動と考えられていましたが、縄文土器から見てきた内陸ルートは全国的にも珍しい発見で、文化庁の主催の全国巡回展にも紹介されました。

縄文時代以降、人々が行き来した交流交易の「キラキラ土器の道」を青少年センター1階に展示していますので、厚真町の歴史の一端をぜひご覧ください。



図書室でのキラキラ土器の展示

ルールブル絵画展を開催

青少年センター2階ギャラリーにおいて小中学校の冬休み期間中、ルールブル絵画展が開催され、町内から62人の来場がありました。

ルールブル絵画展では、ミレーの「落穂拾い」の名画を中心にゴッホ、マネ、ルノワールなどパリのルールブル美術館に所蔵されている作品の複製画20点が展示されました。複製画は全て手彩色で仕上げられており、絵の具の凹凸まで忠実に再現され、会場に訪れた方からは、「幸福感を感じられた」「次回も開催してほしい」といった声が聞かれました。複製画20点を展示した「ルールブル絵画展」



「厚真町教育振興基本計画(改定版)」解説⑤

令和3年度～令和7年度の本町教育の方向性や計画を定めた「厚真町教育振興基本計画(改定版)」の解説⑤をお届けします。

今月は、同計画が目指す10の基本方向のうち「5 ふるさとの良さを理解し、厚真に誇りを持つ子どもの育成」について解説します。

郷土の歴史や文化に学び多様な価値観を育むことができるよう、厚真町が誇る多様な地域資源を活用した学習機会の充実を図り、ふるさと厚真に誇りをもてる子どもたちの育成に努めます。

明日の地域を担う人材を育てることは、教育の大きな役割の一つです。厚真町では小中一貫した「ふるさと教育」に取り組んでいます。



※厚真町教育振興基本計画は、厚真町ホームページ(左記)で閲覧することができます。

ふるさと厚真に
誇りを持てる子ども



多様な価値観

学 ↑ 習 ↑ 機 ↑ 会 ↑ の ↑ 充 ↑ 実

地域資源



1月定例教育委員会

1月27日に開催された定例教育委員会の会議内容についてお知らせします。

◆ 報告事項

教育長行事参加動向／まん延防止重点措置下における町立学校の対応／総合教育会議について／第74回厚真町成人式／長期休業中小中学校学習会／冬休みスケート教室／ルールブル絵画展

◆ その他

各学校の卒業式、入学式への教育委員の出席について

★問い合わせ先

学校教育G ☎27-2494

準要保護世帯を対象とした 高校入学準備金給付のお知らせ

厚真町木本建設教育振興基金の一部を準要保護者として認定される世帯の子弟で高等学校に入学する際の学資金の一部として活用していただくため、入学準備金を給付します。

○ 対象となる方

準要保護者として認定されている方で高等学校等に進学される方

○ 給付額

5万円

○ 給付時期

本年3月下旬に指定の口座に振り込みいたします

○ その他

申請手続きは不要です

○ 問い合わせ先

学校教育G ☎27-2494

令和3年度読書感想文コンクール

町内の小学生を対象に、冬休み期間中、本に親しみ、豊かな心を育むことを目的として行われた『読書感想文コンクール』に今年度は町内2校の小学校から215作品が寄せられ、厳正な審査の結果、各学年から最優秀賞、優秀賞の36点の入賞作品が決定しました。大賞には、厚真中央小学校4年生の大垣尚生さんの『ねだんのつかない子犬きららのいのち』を選んで選ばれました。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、表彰式は中止となりましたが、入賞した児童には、主催者(教育委員会)から学校を通して、表彰状や記念品が贈られました。

応募総数
215点



〔敬称略〕

大賞作品

「ねだんのつかない子犬きららのいのち」を読んで
厚真中央小学校 大垣 尚生

ぼくは、犬を飼いたいと思っています。そこで、犬の本をさがしてこの本を見つけて、なぜ、「ねだんのつかない子犬」と書いているのかが気になり読むことにしました。

主人公は、子犬の「きらら」です。きららは動物愛護センターに收容され、殺されそうになったところを飼い主の「母ちゃん」に救い出されました。その後、動物病院や公園で他の犬たちと出会い、色々な事を学び、成長するお話です。

きららは捨てられた犬で何の種類が分かりません。だから、他の血とう証付きの値だんの高い犬とはちがう事にふてくされてしまいました。そこで、飼い主さんが、

「きらら！そんな事、どうでもいいじゃん！しば犬でもミックス犬でもきららはきらら。母ちゃんの犬だよ。」とはげましていたのが心に残りました。

ぼくは足がおそいから友達とおにごっこをする時に、足の速い人にすぐつかまってしまいふてくされる事があります。そんな時、家に帰りお母さんにその事を話すと、

「人は人、自分は自分。自分なりにがんばればいいのよ。」と言ってはげましてくれました。足の速い人は、走るのがとく意だけど、ぼくは苦手です。だけどみんなとちがって、自分はそろばんや水泳がとく意であると気付いて前向きになれました。だからきららとにているなと感じました。

この本を読んで感じた事は、一人一人とく意な事と苦手な事があり、それは一人一人の個性だという事です。今後は苦手な事が出来て上手に出来なくて、ふてくされる事があっても、とく意な事があると気づき、前向きになれた事を思い出したいです。そして、とく意な事はどんどん伸ばしながら、苦手な事もとく意に出来るようにがんばりたいです。もし、自分の他に苦手な事があって、落ちこんでいる人がいたら上手に出来るやり方を教えたり、前向きになれる言葉をかけて、元気付けたりしてあげたいです。

入賞区分	学校名・学年	児童氏名
大賞	厚真中央小4年	大垣 尚生
最優秀賞	厚真中央小1年	松田 真央
〃	上厚真小2年	三浦 菫
〃	上厚真小3年	小林 陽人
〃	厚真中央小5年	大宮 暉子
〃	厚真中央小6年	福田 莉子
優秀賞	厚真中央小1年	岡橋 咲奈
〃	厚真中央小1年	渡辺 わかな
〃	上厚真小1年	吉岡 茜里
〃	上厚真小1年	松下 侑永
〃	上厚真小1年	中島 千太郎
〃	厚真中央小2年	立花 ひふみ
〃	厚真中央小2年	尾形 ひまり
〃	厚真中央小2年	池田 悠真
〃	上厚真小2年	岡嶋 優芽
〃	上厚真小2年	内沢 慶翔
〃	厚真中央小3年	荒山 楓奈
〃	厚真中央小3年	鷹見 遙
〃	厚真中央小3年	堀川 恭平
〃	上厚真小3年	小向 桜
〃	上厚真小3年	榊 悠陽
〃	厚真中央小4年	福田 康政
〃	厚真中央小4年	中村 夢歩
〃	上厚真小4年	三浦 菜
〃	上厚真小4年	松辻 陸叶
〃	上厚真小4年	新谷 心音
〃	厚真中央小5年	佐藤 遥
〃	厚真中央小5年	原 心々美
〃	上厚真小5年	村上 慶砥
〃	上厚真小5年	山川 希唯
〃	上厚真小5年	柏木 昊
〃	厚真中央小6年	富永 彩
〃	厚真中央小6年	櫻井 南実
〃	上厚真小6年	岩間 咲映
〃	上厚真小6年	海沼 袖衣
〃	上厚真小6年	森崎 心

図書室だより

令和4年2月25日発行

青少年センター図書室

TEL 27-2495 (平日)

TEL 27-2321 (土日)

YA(ヤングアダルト)の紹介!

ヤングアダルト(Young Adult)とは、主に中学生、高校生を中心とした10代の人を指す言葉です。略してYAといいます。

本のいい所は、自分のペースで読み進められるところだと思います。インターネットと違って、昨日まであったページが見つからないということもありません。

青少年センター図書室に小さなYAコーナーがあります。ライトノベル(娯楽小説のジャンルの一つ)の原点になっている小説や何かにつまずきそうになった時に読んでみてほしいと思う本などが置いてありますので、気軽にのぞいてみてください。

ヤングアダルトコーナーにはこんな本があるよ!



- ・SF ショートストーリー傑作セレクション
怪獣篇 群猫/マタンゴ 小松左京, 他/著
- ・にげてさがして ヨシタケシンスケ/著
- ・そして誰もいなくなった HJM版
アガサ・クリスティー/著
- ・ぼくだけのぶちまけ日記
スーザン・ニールセン/作
- ・ウルド昆虫記バッタを倒しにアフリカへ光文社版
前野ウルド浩太郎/著
- ・しんどい時の自分の守り方 増田史/著
- ・あなたを閉じこめる「ずるい言葉」
森山至貴/著



おねがい

感染拡大防止対策にご協力ください

- ・図書室へ来るときは、マスクを着用して、入口で検温、消毒をする。
- ・図書室内では常にマスクをして大声での会話を控える。
- ・体調が悪い時、または家族の中に体調が悪い方がいる時は、外出を控える。



- 青少年センター図書室開館時間
午前9時から午後5時(月・水・金・土・日)
午前9時から午後7時(火・木)
- 厚南会館図書室
午前9時から午後5時(月~日)
※毎月5日・20日が土日・祝日の場合は
休館となります。

3月の「おはなしのびっ子」による絵本の読み聞かせは

24日(木)10時30分から11時まで

場所は 青少年センター図書室 絵本コーナーです。

☆ 放 課 後 子 ども 教 室 ☆

立春を過ぎ、暦の上では春に入りましたが、今年はたっぷりの雪が「最後まで冬の余韻^{よいん}を味わってね」と言わんばかりに視界に広がります。北海道の春はまだ遠いですね。大人にとっては厄介極まりない雪の山ですが、子どもたちのにとっては宝の山。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、全道を対象にまん延防止等重点措置^{はっしゅつ}が発出されました。そのため、1月後半から2月の子ども教室は、屋外での活動をメインにプログラムを実施しています。今シーズンはたくさん雪があるおかげで、外遊びが中心の活動においても、子どもたちは飽きることなく、心も体も伸び伸びと開放して、放課後の時間を過ごすことが出来ています。季節ならではの遊びを、しっかり遊び尽くせるという点では、このような状況下であっても悪いことばかりではない、と思う日々になりました。

学校のグラウンドには60～70センチほどの積雪があります。積もった雪はとてつワカワカで、歩くたび、大人は膝丈^{ひざたけ}まで埋まってしまい、一步ごとに落とし穴にはまるような感覚です。子どもたちはその雪をスコップで掘り出し、基地を作ったり、温泉に見立てて宿屋ごっこをしたり、発想力豊かに遊んでいます。学校林や河川敷での尻すべり大会も、今年は何度すべっても、地面の土や草が顔を出すことが少なく、お気に入りのコースを長い時間楽しむことが出来ました。斜面をすべる遊びはとても魅力的ですが、同時に斜面を登らなければならない、という宿命も持ち合わせています。時間いっぱい、何度もすべっては登り、登ってはすべりを楽しんだ子どもたち。帰る頃にはもうクタクタで、帰り道ものんびりペースで歩いていきます。きっと、夜ご飯を食べて、お風呂に入ったら、ぐっすり眠れたのではないのでしょうか。このほか、新雪に飛び込むジャンプ合戦が始まったり、そりすべりの技術を競い合ったり、にぎやかな声が真っ白な世界^{ばはん}に響きました。寒さに負けず、よく遊んだ子どもたちです。また、2月の活動では、西荻馬^{さいおひま}からばん馬のキャップ、ポニーのハスポンも登場し、子どもたちも馬のお世話をしたり、馬そりに乗せてもらったりもしました。町内在住の林業家である永山さんにも来ていただき、ロープを使った活動など、遊びの幅を広げていただきました。地域の方々のご協力に改めて感謝を申し上げます。

